

伊勢物語

上



2

かひうのうわらわさた乃すわね  
志乃ふれんる體もやう——  
とを舞をうたきそいひやううはしそ  
にうたたるうとあやねひん



みら乃くの愚ももちすわなゆいふ  
見いふもあやふいふなへ

いふふいふいふなわすう一人あはく  
いらふやまにやひをなうん——く教

あ——ねえとありけりなう乃京はあ

神の京ハ人乃いふまゝきたはうさり

あね時に西儀京なり女あわらうあ

女世人なりハまきもちりりわうの人かいち

よわはんあはさるうわは教りうわ乃と

もろさわけじうれをぬのまめな  
うもおかふひそかつきといか  
なひん時やぶひのはいあらあを  
するや里る

にあもさひひもそとるあひさそ  
春のもろとるなめくは



夢——なまこけりけけけ——  
ものたけけけもていふ物をやる  
思ひあはむくのふれも——なん  
ひきまものもを志はるも  
三条流きたたはるゑかやもつかう  
さうりりくく人くおり——  
とたのいとなわ



むー東の五条河原に花はまきいれまは  
りー梅しんがたみー乃もいふむいー何  
れをうまをほい河原をあらへさーぬ  
かー里もろ人けとぬ寝ひくる哉む月の  
十はりり候むと小ほくにかへ神より  
ありけいまけと人候むさかふふ来とて  
ももあーさわろ神へかをさーやれもひ  
はななんあわろ候ふのとー乃ひ月小梅  
乃花さうりりりこをこひさつさてみち

て思ひを思ふれと云ふ事あるあつても  
何れも思ふてあつたな家づゝ——  
きつゝ月のかつてまつたぬかりと云ふを  
ながひつゝもあつた

月やあつたぬをやあつたのはるなつたぬ  
我がはるやあつたハもと乃君——  
思ふて思ふのほつた——とあつた家づ  
なつたかつたなりなり



昔はさくらわたりはん——此五条をいふ  
可いや——のひそかにあつたところある  
ところあれハかどらわもえいつてまうハ  
へ乃さうあけたるついでち乃くは遠くわ  
かすひらわんきげともあつねとふひを  
なわら神六ある——きつてうめりふひ  
ちよねことには人をのこすもせらねを  
いけやもえあつてうりつかりさるゝあは  
人志はぬわつぬふひちのせはあはハ

よひくもたづもねな〜ん

やよめわんせへいさいたうこ〜ろやえけ  
里あう〜ゆる〜るり二条けききたよ  
〜乃ひてまひりんぬ城哉きき〜あわ  
々神八お〜とたちのま〜せたまひけ  
候と〜う



昔ねとあわらわをんふのえうき  
かりらう歳年をうてよりひまふわら  
をううてぬきえおていそくたよ  
らわあきた何といふかをせうまふ  
をらそのうんをうたわらぬが  
いなふうとなんねとすうひふり  
すたおほくねもあふら神六おにけ  
ともうていえきんやういーうな  
あもいさうあわら神六あうし  
照候うに